

# 原爆とテクノロジーの規範性

The Atomic Bomb and the Technological Imperative

原爆の開発から投下に至るまで、

その決定に巨大な影響力を及ぼしたテクノロジー。

ノーラン教授は、人間の思考や行動を左右する

テクノロジーのあり方に着目し、

その現代社会における危険性に警鐘を鳴らす。

いったいどのようにしてテクノロジーは独立した命を持ち、人間の行動や思考に思いもかけない影響を及ぼすことになったのか。この講演でノーラン教授は、原爆の開発・投下を典型的な事例として取り上げ、「テクノロジーの人を駆り立てる力」が「核の時代」を開き、今なお現代社会のあり方に重要な影響を及ぼしていることを指摘する。

講師 ジェイムズ・L・ノーラン (James L. Nolan Jr.)

アメリカ・ウィリアムズ大学社会学教授。祖父は、原爆開発計画であるマンハッタン計画に参加し、原爆の開発・輸送・投下後の調査に関わった医師、ジェイムズ・F・ノーラン。  
著書に『原爆投下、米国人医師は何を見たか』原書房、2022がある。

入場無料

日程：2022(令和4)年12月10日(土) 時間：14時~15時30分  
会場：長崎歴史文化博物館ホール(1階) 長崎市立山1-1-1

主催：長崎純心大学キリスト教文化研究所 共催：エディット・シュタインの友・長崎 (Edith-Stein-Freunde Nagasaki)